



がんばる 青年部

熱きメッセージを看板に！ 立て看板作り

JA青年部は、農業のある地域づくりの大切さを農業関係者や地域住民にアピールする活動の一環として、各地域の支部ごとに「立て看板運動」に取り組んでいます。

そのうち、花巻地域花巻支部は6月20日から花巻支店営農課(花巻市桜町)で作業を始めました。農作業を終えた午後7時に盟友が集まり、さまざまな色のペンキを塗り進めながら、盟友たちの思いを看板に込めました。図案は、粳を差し出している



細かい部分を丁寧に塗る盟友たち

る両手を中心に、農業者の高齢化を連想させるイラストを配置。多田徹支部長は「お米は毎日食

べていて魅力的な食べ物だが、現状は農業者の高齢化やTPPなど問題を多く抱えている。この看板を通して、地域の農業について考えてほしい。」と話しました。制作した看板は花巻支店の入口横に掲示してあります。

同運動には、県青協が主催するコンクールも設けられており、選出された看板は全国コンクールに出品されます。昨年は花巻地域石鳥谷支部が全国コンクールでJA共済連賞を受賞しました。



皆のアイデアを集めた看板を前に笑顔を見せる盟友

心を耕し未来へ 食と農の掲示板

～手軽に出来る和菓子作り～



どら焼きの生地作りを実演する牛嶋さん(右)

分量などを真剣にメモを取る参加者たち

JAは6月10日、北上地域の組合員やその家族などを対象とした「くらしの活動料理講習会」をJA北上地域料理研修施設来夢(北上市流通センター)で開きました。

この講習会は9月までに4回開き、さまざまな料理の調理方法について学びます。第1回目の開催となった同日は16人が参加し、牛嶋日出男さん(JA生活福祉リーダー)を講師に迎えて、どら焼きと電子レンジで作るいちご大福に挑戦しました。

参加者たちは牛嶋さんの説明に聞き入り、「分量はどのくらい」などの質問をし、真剣にメモを取りながら作業

を進めました。いちご大福の生地は、もち粉や水などを混ぜ合わせたものを電子レンジで温めてかき混ぜる作業を数回行って作り、どら焼きの皮は、薄力粉を使ってホットプレートで焼き上げ、いちご大福約50個とどら焼き約30個を参加者たちで協力して完成させました。試食会では、出来たてのおやつと共に参加者同士の交流を楽しみました。

参加した伊藤文子さんは「どら焼きを皮から作るのがあまりなく、良い経験になった。家でも作って家族と食べたい。」と笑顔で話しました。